

解答

問四	問三	問二	問一
工 作品 指	d a ウ e b イ c オ		

問十一	問十	問九	問八	問七	問六
a ア ウ C	ア	ウ	C	ア	イ
不可欠	2			6	工
		イ		イ	2
b 1	1			2	才
能動	ウ			ウ	
c 2				1	
共鳴	工				
		1			
d 勝手					
e 洋					

問一	a 経験	b みうち	c かっこう	d がてん	e 複雑
----	------	-------	--------	-------	------

A オ B ウ C カ D ア E エ
I イ 2 ア

考えていたほど喜んだりうれしがつたりせず、なぜか冷静な（気持ち。）
(自分が)暗くておとなしい性格だから。
手をひざに置いて正座をしていた

問十一　誕生日　いつのやうに

誕生日
— 自分はおじいさんの家の子になってしまったが、母さんはお姉さんだあります。—
2 いのうち

考えていたほど喜んだりうれしがつたりせず、なぜか冷静な（気持ち。）

手をひざに置いて正座をしていた

四庫全書

—自分はおじいさんの家の子になってしまっているが、母さんはお客様

解說

問十二

おじいさんの家で暮らすようになつて、まだ十日しかたつていないので、母さんと会つて違和感を持つた「ぼく」。「ああ、そうか」「母さんはこのうちの人ではないんだ」「ぼくはこのうちの子になつたんだ」「このうちの子だから、お客様には麦茶を出し、お客様から頂いたケーキは冷蔵庫にしまう」と、母さんの関係が変わつてしまつたことに「ぼく」が納得していく様子が描写されています。